



解説補足

こちらはゲーム本編のネタバレが含まれています。
必ずゲーム終了後にお読みいただきますよう、よろしくお願いいたします。

この世界について

かつて、この世界は魔法という不思議な力で溢れていました。

それはなにもないところから火を起こし、水を呼ぶ。

魔法は生活の一部でしたが、現在は衰退しています。

もはや、絵本や物語の中の存在でしかありません。

魔法使いもきっと、もういないでしょう。

しかし、物は違いました。

魔法のことを覚えている、その身に宿している。

それは魔法使いたちが後世のために残した物かもしれません。

この世界にはそういった物たちが、ひっそりと息づいているのです。

魔法の植木鉢について

薬屋リーファに代々伝わる植木鉢です。

見た目はなんの変哲もない、素焼きの茶色い鉢をしています。

種をまかずとも花が咲きますが、その花が咲くのは数十年に一度きり。

咲いたあとすぐに枯れてしまうため、観察が必要です。

花の形はマーガレットのようなイメージで、花卉は五枚。

万能薬が光り輝くように、花もまた、淡く美しく発光しています。

万能薬について

その名の通り、万病に効く薬です。

しかし、死んだ人には効かず、傷口などにも効果はありません。

ルルは父親から、この薬を適切に使うことがリーファの薬師の使命であると伝えられていました。

ルルについて

キャラクター像が決まった時点で、名前は同じ音を繰り返す二文字がいいと思っていました。

そこでルルという響きに行きつき、採用。

あとで単語を調べてみると、ラテン語で「鎮める」などの意味合いがあると知り、驚きました。

また、ドイツ語では「大切な」などの意味もあるそうなので、両親に大事にされていたルルにぴったりだと思っています。

はじめはあまり笑わないような冷静な子をイメージしていましたが、実際に書いてみると笑ったり怒ったり、表情が豊かになっていきました。

こういった変化も、物語を書いていて楽しい要素のひとつです。

ツバメについて

ツバメは鳥のツバメから名づけています。

初期設定ではもっと女性関係で色々あるような感じでしたが、全体設定が変わっていくにつれ、今のツバメに落ち着きました。

それでも、女性からの告白を断らない罪な男ですね。

きっとルルと過ごすうちに、そういったこともなくなっていくのでしょう。

普段の彼は、身振り手振りをわざと大きくしています。

しかし、実際はもっと静かな動きの人です。

植物に見せるふとしたときの表情に、ドキッとすることもあるはず。

父親について

ツバメから見た父は、家庭を顧みない仕事人間でした。

しかし、父親が薬屋を建てたのは、持病がある母のためです。

各地から腕のいい薬師を集め、持病を治すための薬を研究していました。

誰よりも自身の妻を愛しています。

そのため、万能薬で母親の病が治ったあとの彼は、研究に打ち込んでいた時間を家族のために使うようになりました。

おわりに

この度はプレイしていただき、誠にありがとうございます。
本作はお楽しみいただけましたでしょうか。

エンドカードもありますのでご感想とともにつぶやいていただけますと、作者の励みになります。

ハッシュタグは #はるちど です。

つぶやく際はネタバレにご配慮いただけますと幸いです。

今回は悩みに悩んだ作品となりました。

制作も難航し、たくさんの方に助けていただきました。

遊んでくださった方々も含めて、本当に感謝しております。
ありがとうございます。

ストーリープレイングにしたいお話がまだまだありますので、今後も制作していく予定です。

次の作品も手に取っていただけるようがんばりますので、
『まみずや』をよろしく願いいたします。

まみず